令和8年度

池田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

・「聴くこと」「書くこと」「読むこと」「計算すること」等の学習の基礎となる力の定着を図る。
・めあて、振り返りを意識した指導を徹底する。

校長　森本　誠司

学力向上推進員　東　由紀

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○●基礎的・基本的な学力が身についている児童がいる一方、その定着が十分ではなく、既習内容の復習や個別の支援が必要な児童も多い。学力差が激しい。	・基礎的、基本的な知識・技能を身につけ、学習や生活で用いることができる。	・漢字や計算等、習熟度に応じて基礎的・基本的な内容や応用問題に取り組む時間を設定する。（ドリル、ワーク、ドリルアプリ等を活用）	木曜日の朝活の時間を「学力向上タイム」とし、全校で取り組みを進めた。中間期見直しアンケートでは、約90%の教員が「よく取り組めた」「だいたい取り組めた」と回答している。今後も実施内容や方法等を工夫し、継続して取り組んでいく。		

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○進んで意見を発表したり、興味があることについて調べたりすることに前向きな児童がいる。 ●語彙が少なく、自分の考えをまとめたり、伝えたりすることが苦手な児童もいる。	・根拠を明らかにし、自分の考えや思いをわかりやすく表現することができる。	【低学年】 ・自分の考えや思いを友達に伝える機会を効果的に設定する。 【中学年】 ・話し方、書き方のモデルを示したり、友達の発表を参考にするよう声をかけたりする等、理由をそえて意見を伝えられるようにする。 ・相手意識をもち、理由をそえて自分の考えを表現できるよう指導する。 【高学年】 ・学習中に自分の考えを述べたり、学習後の振り返りを書いたりする機会を増やす。 【特支】 ・具体的なキーワードや選択肢を示し、自分の思いや考えを表現できるようにする。 ・話型モデルや振り返りを掲示し、根拠を明らかにして自分の意見をわかりやすく伝えられるようにする。	中間期見直しアンケートでは、約80%が「よく取り組めた」「だいたい取り組めた」と回答していた。その一方、「あまり取り組めなかった」という回答も約25%だった。「児童の自己評価にアプリを活用する」等、効果的だった指導方法を教員間で共有し、取り組みのいっそうの充実を図る。		

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○素直な児童が多く、決まったことや指示されたことに対して前向きに取り組もうとしている。 ●教師や友達の話を聞いていないことや授業前に学習準備ができていないことがある。 ●学習に対する意欲が低く、試行錯誤することなくあきらめてしまいがちである。	・様々な学習にめあてをもって取り組み、振り返ることにより、主体的に学習に取り組むことができる。	・「学校力向上コラボレーション事業」において協力校と連携し、単元またはその一部において、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ、表現」という探究の過程を意識した学習を展開する。	1学期の実践、振り返りをもとに、具体的方策を次のように変更することとし、具体的目標の達成に向けて取り組む。 「学校力向上コラボレーション事業」において協力校と連携し、探究の基盤となる資質・能力の育成を目指し、教職員が個別の授業改善（「マイ探究」）を行う。		